

## 第5回福井県行財政改革推進懇談会 概要

- 1 開催日時 平成28年7月21日（木）13時30分から15時00分まで
- 2 開催場所 県庁7階 特別会議室
- 3 出席委員 窪田春美、白崎弘康、鈴木綾子、藤原秀美、丸屋豊二郎（座長）、安久彰、山田照幸、吉田雅世（50音順 敬称略）
- 4 事務局 東村総務部長、杉本総務部企画幹、戸田人事企画課長、竹内人事企画課参事（行政改革）、大石財務企画課参事（予算編成）

### 5 議事次第

- (1) 開会
- (2) 協議事項  
「第四次行財政改革実行プラン」平成27年度の取組状況について  
福井県女性活躍推進計画について
- (3) 閉会

### 6 協議概要

- (1) 「第四次行財政改革実行プラン」平成27年度の取組状況について  
(委員)

県が誘致した企業の中で、業績悪化等により撤退した企業はあるのか。

また、企業立地の際には、県や市町から補助金や固定資産税の減免等、様々な優遇措置が受けられるが、優遇措置を受けた企業が撤退した場合であっても、優遇した以上の効果が得られているのか、それとも優遇による持ち出しの方が多いのか。

(事務局)

企業の撤退は過去5年で1件のみである。

企業誘致は、設備投資や消費の増加に伴う地域の活性化、税収増加等が見込まれ、継続的に稼働することにより、優遇措置に見合う効果は得られると考えている。

また、企業が立地するエリアによって、固定資産税を減免した分が、地方交付税により補てんされる場合もある。県独自で実施する固定資産の減免や補助金などの優遇措置については、制度を設計する際に必ず何年で採算が取れるかをシミュレーションしており、数年で撤退しない限り持ち出しになるようなことはない。

(委員)

企業の分野は多岐にわたるが、県は企業誘致する際に重点分野を定めているのか。

(事務局)

補助金では、企業の分野により、補助率や限度額等を定めている。

最近では、本社機能や試験研究機関が新たに立地する場合は、より優遇する項目を新たに設けた。

(委員)

資料に記載されている企業立地件数とは、県が誘致した件数か。それとも市町等が誘致した件数も含まれているのか。

(事務局)

県内に立地した企業が全て計上されている。

(委員)

県単独で実施している優遇措置には、具体的にどのような措置があるのか。

(事務局)

例えば、従業員の数や設備投資額が一定の要件を満たした場合に、土地取得や工場建設に要する経費の一部を補助するなどの優遇措置がある。

先端技術産業関係企業の場合、投下固定資産額が10億円以上、新規雇用者数が30人以上であれば、補助率は2割、個別限度額は10億円となっている。

(委員)

県債残高をどの水準に持ってくるべきか。事業を実施しなければ、結果的に県債の発行を抑えることができ、定期的な償還により県債残高は減少する。

残高は県民負担の観点から少ない方が良いが、どこまで少なければよいのか。

例えば、石川県や富山県の県債残高が多いのは、北陸新幹線開業に合わせて、様々な整備や投資を行っていることが理由と思われる。

残高をどの水準にまで抑え込むことが福井県にとって一番良いのか。

(事務局)

財政健全化法により定められた指標として、実質公債費率やストックベースの将来負担比率がある。

健全化基準を下回るだけでなく、全国的に中位程度の水準を維持したいと考えている。

また、県債残高は、将来負担比率で見ると全国の中で少ない方から16位であり、現在のところ、財政規模に応じた残高は良い状態であると考えている。

(委員)

水準とは、何に対しての水準なのか。残高で捉えるのか。それとも、税収に対する残高で捉えるのか。

(事務局)

この指標は、標準財政規模といわれるが、税収や交付税収入に対して県債残高がどの程度かという観点で捉えている。

第四次行財政改革実行プランは、今後の新幹線建設による県債発行の増加なども踏まえ策定した。

ただし、現在は県債の借入金利が低いので、金利の低いうちに借りるべきか、それとも発行を抑えるべきかなど、いろいろと検討しながら県債の発行を計画しているところである。

(委員)

基金残高をみると204億円となっているが、そのうち財源不足に対応する基金と、事業の経費に充当するために果実を運用する基金との割合はどの程度か。

(事務局)

この基金は財政調整基金であるため、財源不足に対応する基金である。

特定目的のための基金は別にある。

(委員)

特定目的のための基金はどの程度あるのか。

(事務局)

特定目的のために積み立てている基金は約500億円である。

果実を運用する基金については、現在利息により事業を実施できる状況ではないため、基金によっては取り崩しも検討していく必要がある。

(委員)

基金はどのように運用しているのか。金融機関に預けると利率が低いと思うが。

(事務局)

定期預金だけでなく、国債や県債運用もしている。

(委員)

大学と協力した政策推進では、関西圏の3大学と就職支援協定を締結しているが、関西には同志社大学や同志社女子大など、他にも大学がある中で、この3つの大学を選択した基準は何か。

(事務局)

県内からの進学者数が多い大学を選択している。

(委員)

就職支援協定の締結大学を増やすことは可能か。

(事務局)

締結大学は今後も拡大していきたいと考えている。

(委員)

企業誘致活動の促進で、32件の企業立地が決定したとあるが、そのうち嶺南に立地した企業は何件あるのか。

(事務局)

7件である。

(委員)

県有資産のマネジメント強化として、新しいところでは教育研究所や自治研究所の移転があるが、県有資産のうち転用や有効活用の対象となっている物件を、例えば敦賀市にあるものを、リストアップすることは可能か。

(事務局)

空き地になった県有地を売却した事例はあるが、資産の貸出しについてはほとんど事例がない。

(事務局)

市町では小中学校の統廃合が進んでおり、例えば、廃校となった坂井市丸岡の竹田小学校を県が補助金を出し合宿施設に作り替えた。廃校の活用については今後の大きな課題である。

また、県有資産の活用の観点では、新幹線の工事に伴う埋蔵文化財調査が行われており、多くの文化財が発掘されているが、保管場所として空いている県の施設を活用している。

(委員)

県有資産のマネジメント強化の関係で、県内出身の学生を対象に県職員住宅の貸付を募集したところ、29室のうち3室しか利用されていないとのことだが、大学と連携するよりも、各高校に対して、貸付けを周知した方が効果的ではないか。

(事務局)

各高校には通知しており、先生から保護者にも周知してもらおうようにしている。

(委員)

以前、県営住宅に、東日本大震災の被災者を受け入れていたが、熊本地震の被災者の受け入れは行っているのか。

(事務局)

県では受け入れを行っていないが、市町では受け入れを行っているところもある。

(委員)

地方税滞納整理機構において、個人住民税等を共同徴収しているが、個人住民税の時効は何年か。

(委員)

税金の時効は5年である。

(事務局)

滞納者に対しては、財産を差し押さえることになるが、差し押さえできない場合は、不納欠損として処理することになる。

## (2) 福井県女性活躍推進計画について

(委員)

男性職員の育児参加について、育児は女性が行い、男性はその手伝いをするという前提のもとで、女性の働き方を改善させるためには、男性の働き方の発想を転換させることが重要である。

特に、県職員は子育ての施策を考える現場で働いていることもあり、育児休暇を1週間ではなく月単位で取得し、実施に現場で子育てに携わることにより、新たに発見が得られるのではないかと思う。

これは、男性のみの部署に女性が加わることによって、初めて気が付くことがあるように、女性が主である育児の現場に男性が入ることによって、今まで分からなかった問題点や、その改善策が導かれ、新たな施策に結びつくのではないか。

(事務局)

育児休暇の期間が1週間では短いという声がある一方、過去に男性職員が取得した育児休業の実績を調べると、1～2か月程度であり、1年間の育児休業を取得した男性職員はいなかった。

これは、育児休業により給料が減少することや、仕事の関係で長期間の休暇を取得することが、現実的に難しいことが考えられる。そのため、気軽に休暇を取得し、子どもと向き合う良い方法を検討し、子どもが1歳になるまでの1年間に5日間の有給休暇を取得すると、前後の土日を加え約10日間の連休になることから、5日間の有給休暇であれば、各所属で工夫をすれば気軽に休むことができるのではないか。

1週間休んで子育てに向き合い、授かった命の大切さを学ぶことにより、その後の子どもとの関わり方が変わるのではないかと考えている。

夏休み期間中に、朝7時30分に出勤し夕方4時15分に帰る朝型勤務を1週間のうち1、2回実施し、男性職員の場合は、保育園に子どもを迎えに行くなど、子どもとの触れ合いを進めてもらいたい。また、朝型勤務で働き方を変えていきたい。

(委員)

県職員の有給休暇の取得数はどのくらいか。

(事務局)

年平均8.4日取得している。

(委員)

この育児休暇を取得する以前に、有給休暇が非常に取得しにくい中で、このような制度を示されても、職員は気軽に休暇を取得しづらいのではないか。

(委員)

有給休暇は1年間で20日間か。

(委員)

前年の未使用分を加えると、最大40日間になる。

(委員)

年平均8.4日では少ない。

(委員)

これが現実であり、制度を作ることは非常に良いことであるが、当の本人たちが遠慮気味になり、取得が進まないということになり得る。

上司が積極的に有給休暇を取得することによって、部下も取得しやすくなる。

私の職場でも、事務方ではあるが、有給休暇取得率が100%になる部門が増えてきている。そうすると、10人の職員が必要な仕事を8人の職員でできるようになる。

(委員)

平成27年度からは、採用者の女性割合が、受験者の女性割合をかなり上回っている。

逆に平成25、26年度は、採用者の女性割合が、受験者の女性割合よりも少なくなっている。

これは、平成28年度から女性活躍推進計画を推進していく必要があるため、女性を多めに採用したのか。

(事務局)

平成27年度は、保健師など女性が多い医療系や福祉系の職種の採用が多かったことによるものである。

(委員)

1年以内に1週間以上の連続休暇を取得する職員の割合を50%以上にするとの目標を掲げているが、どのように達成するのか。

(事務局)

職員への推奨を行っていききたい。

配偶者の出産休暇についても、推奨した結果、取得することが定着している。取得することが当たり前になるような風土づくりを、各所属に働きかけていきたい。

(委員)

役所が数値目標を掲げると、数値目標を達成するために、強制力が働くのではないか。  
職員が自発的に休むことにより、目標達成できるのであればいいが。  
率先してやるというのであれば、目標を100%にすればいいのではないか。

(事務局)

4月に各所属長を集めた会議により人事企画課長から周知しており、25歳、30歳  
研修といった受講者が育児休暇取得の対象となるような世代の研修でも周知している。  
子どもがいる男性職員の平均の子どもの数は約2人であるため、第1子または第2子  
のどちらかにおいて、1週間以上の連続休暇を取得することを想定し、目標を50%と  
した。

(委員)

女性管理職割合の目標値を15%と定めているが、優秀な女性職員が管理職に昇任す  
ることによって、女性管理職の割合が高まることは歓迎すべきだが、数値目標を達成す  
るために何としてでも、女性職員を管理職に昇任させなければならなくなるような懸念  
もある。

同じ能力であれば女性ということ優先されるのは避けるべきである。

(委員)

育児休暇を希望する、希望しないということも問題であるが、育児にどっぷりと浸か  
ることは、ある意味、職場で仕事をする以上に大変な労力を使うと思う。  
休暇では決してなく、育児という大変な仕事を妻と代わるという認識が必要である。

(委員)

この会場にいる職員の中で、子どものために有給休暇を取得した職員はいるか。

(事務局)

今年の4月に第2子が誕生し、5月に1週間の休暇を取得させていただいた。  
第1子の保育園の送り迎え等の際に、時間単位での有給休暇の取得など、年間通じて  
必要な時に、有給休暇を取得できている。

(委員)

休暇を1週間継続して取得するよりも、子どもが2～3か月程度になってから、子育て  
で支援センター等に、妻に代わって夫が子どもを連れて行って、育児を習ってくるため  
に有給休暇を取得した方がいいのではないか。

1週間の育児休暇を取得したとしても、夫が妻に代わって全ての育児を行うことはま  
ずないと思う。

妻が育児に疲れ、夫に1日休んで代わってほしいと思っている時に、気軽に休暇を取  
得できるような雰囲気づくりが重要ではないか。

(委員)

休暇を取得する側として、子育てのため有給休暇を1日取得する申請はないように思  
える。

(事務局)

子どもの入学式や卒業式への参加や、保護者会への参加等のために、休暇を取得する  
場合は良く見られる。

(委員)

卒業式や入学式、幼稚園、保育園の送り迎えをするだけでは育児とは言えない。

丸一日かけて、子どもの世話を妻に代わって夫がしっかりと行うことが育児である。

(委員)

女性の管理職の割合を今後増やすのであれば、女性の採用を同時に増やしていかなければならない。

(委員)

育児休業中の職員の能力を伸ばすことができるよう、年齢別研修等への参加とあるが、参加ということは研修会場に集まらなければならず、育児を頼んで参加することになるため、eラーニングを活用した研修カリキュラムを作ってみてはどうだろうか。

県だけでは費用がかかるので、国で作成してもらえるよう提案してみてもいい。

(委員)

少子化や人口減少は非常に重要な課題であり、福井県も例外ではない。

1億総活躍社会の実現に向けて、男性や女性の働き方について再度発想の転換が必要ではないか。一度見直し、従来の枠組みを変えていくことが重要である。